

令和6年度 自己評価結果公表シート

錦溪幼稚園

1、園の教育目標

子ども達が、明るく楽しく健やかに生活できることを願い、知育・徳育・体育の三本柱による「全人教育」に取り組み、どの子ども『仏の子』として清新な仏教精神を理念とし、生命の尊重、感謝の心、けじめのある態度を養い、やさしい心を持って、大きな声で挨拶が言え、お話をしっかり聞ける子に育てていくことを目標としている

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

改訂された幼稚園教育要領により、幼稚園の教育課程の内容を、全教職員が再度改めて 徹底理解をはかり、保育を見つめ直し、教育内容の更なる充実を目指し教育の質向上に努めると共にコロナ感染症により多くの断念せざるを得ないものもある中で可能な限り行事や保育を実施した。困難な状況の中でも、たくましく成長した園児たちそれを支えて下さった保護者、教職員の皆々に感謝の気持ちを表す。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育要領の実施において、教職員の共通理解をはかる	新幼稚園教育要領を全教職員がしっかりと理解し、現場の保育内容に反映できるように、様々な事例に合わせて話し合いを行っている
現状を理解し、中・長期ビジョンを策定する	大きく変化する社会的ニーズを見極め、5年後・10年後・20年後の幼稚園の在り方、新制度への方向性を検討している
教育の質の向上のために、園内研修を行う コロナ禍にあつて教職員の研修のあり方を考える。	専門の講師を招いて園内研修の実施。オンライン研修会を取り入れるなど 英語教育教材「サイバードリーム」をバージョンアップし有効に活用し適時教育に努めている。クラス、子供の様子や保育を振り返り教職員全体で「園児一人ひとりをみる」という意識を高めている
保護者のニーズの把握と、要望・苦情への対応をはかる	保護者との懇談会やアンケートを実施。出された意見は全職員が共有し、改善すべきことは改善していくように取り組んでいる
子ども一人ひとりに応じて保育の実践	キンダーカウンセラーや訪問指導者との連携を密にし、個々に応じた指導の在り方を研究し、特別支援の必要な幼児に対し月毎カリキュラムを作成し指導の深化充実を図っている
子育て支援の充実をはかる	園庭開放、ちびっ子ディ、1歳児親子教室、一時預かりなど実施し子育ての情報を提供したりして未就園児の子育て支援に努めている キンダーカウンセラーの先生との交流会実施
「あいさつ」の励行	「あいさつ」については園内の意識も高まりがみられます。励行に向けくり返し、その大切さを伝え自分からあいさつができるよう取り組んでいます

各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする 感染症対策	各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会等において提供し、共有化を図るようにしている
体験活動の重視と工夫	年間行事の再構築すること、実際の体験ができないことが多かったが、教材や栽培、園の周りの自然環境などを生かして、体験することの重要性を大切に保育を実施した。
子どものよさを認めて評価しようとしている	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。気づいたことは、みんなで、共有する。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組んでいかなければならない課題を全教職員が共通認識し、その状況を話し合うことにより、本園の方針を具現化でき、実施していくことができた。コロナ感染症の中でも工夫を凝らして今年流での取り組みを実現できている。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	新教育要領に基づいた指導計画の作成のために訂正、加筆をさらに加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく
安全管理、 感染症対策	これまでの不審者の対する危機管理マニュアルだけではなく、耐震補強工事完了に伴いより一層大規模な自然災害を想定した危機管理マニュアルの作成と全教職員への徹底をはかり今後より一層訓練内容を充実させ、対応方法や各職員の役割分担の理解を深め災害発生に備えていく コロナ感染症については日々状況が変化しているため状況の変化を 教職員が共有し対応することを
自己点検、自己評価	最低限こうしてほしいといった基本の項目を点検課題として挙げているので、各教職員においてはさらに課題を上げるようにして自己研鑽に取り組むようにしている
園に対する保護者の満足度の把握	子育て真っ盛りの保護者の望む幼稚園象を把握することにより、社会における現在から未来に求められる幼稚園の在り方を確認し、中・長期ビジョン策定の基にした い スマホ時代に見合う 、園情報発信やお知らせの新しい在り方が求められる。
教職員の指導力の向上と活性化を図る 地域、家庭、支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の保育見つめ直し高める ・ 他のクラスの保育を見学する ・ 研究保育の実施 年間数回程度 ・ 保護者とのコミュニケーション ・ その子の良さの発見 家庭教育への理解、キッズ-カウンセリング実施、保幼小の連携、子どもの育ちや学びの連続性の発信。

6、学校関係者評価委員会の意見

特に指摘すべき事項はなく、経験豊かな教職員のもと安心と充実のカリキュラムで保育が行われている。感染症対策にも徹底予防努めている。園児・保護者に対して丁寧な対応をしてくれている。常に新しい目線での取り組み、保護者の意見にも耳を傾けてくれているなど、今後も子供たちの育ちを1番に考え錦溪幼稚園らしさを大切に教育に取り組んで下さい。子ども達の心に届く保育を心がけて欲しい

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている